

第 2 回計画審議会 開催報告

1. 概要

日 時：令和 7 年 8 月 28 日(木) 13:30～15:30

場 所：白馬村保健福祉ふれあいセンター 2 階 学習室

参加者：26 名

内 容：(1) 村民ワークショップの報告(意見交換:ワークショップの意見を見て感じたこと)
(2) 人口ビジョンについて(意見交換:理想の将来人口と増えてほしい村民像)
(3) 基本構想の方向性について
(4) 自治基本条例(仮)について
(5) 意見交換:将来に向けて最も大切にしたい「白馬村らしさ」

2. 村民ワークショップの報告（意見交換:ワークショップの意見を見て感じたこと）

会場の壁面に掲示したワークショップで出された意見を見た上で、グループで対話した。

■ 主な意見

- ・ たくさんの意見が出され、白馬の将来を真剣に考える村民が多くいることを改めて認識した。
- ・ 基本的には同様の意見が多く共感できるが、一つの事柄でも相反する影響や意見もある。
- ・ 自然環境についてはほぼ全ての人が守るべき大切な財産と考えている。
- ・ 人やコミュニティに関する意見も多く、人間性や関係性も大切な要素である。
- ・ 若年層が住める住宅の確保と手厚い子育て支援が求められている。
- ・ 地価の上昇や開発の増加を不安に感じている村民が多い。
- ・ ワークショップ参加者は移住者や若い人に偏り、福祉や農業等に関する意見が少なかった。
- ・ 村の歴史やこれまでの経過を知った上で議論・対話することも重要。

3. 人口ビジョンについて

資料に基づき事務局から説明した後、グループに分かれて目指すべき将来人口と増えてほしい村民像について対話した。

■ 主な意見(目指すべき将来の人口)

- ・ 増加(9) <いずれの委員も 9,000 人～10,000 人程度が理想と回答>
目標としては「増加を目指す」くらいが良い／地域経済と教育や医療、村の財政、人材の確保等の観点から／移住希望者は多く、住宅と通年の仕事があれば増加も可能。
- ・ 現状維持(14)
これ以上減少すると経済面・社会面で衰退していく／現状維持で質的な発展を目指したい／インフラ等を考えても増加は難しい／持続可能性と適度なコンパクト感／最終的には減少を受け入れざるを得ないが、減少を抑制する意味でも維持を目指したい／年齢構成は要改善／白馬で生まれ育った子どもたちが戻って来られる(戻ってきたいと思う)地域にしたい。

- ・ 減少を受け入れる(1) <7,000 人程度>
全国的な状況を鑑みて厳しい。減少幅を抑えつつ機能維持に必要な人材を確保したい。
- ・ 未回答(1)
外国人の定住者は増えているが、今後の見通しが不透明。後継者不足等も課題。

■ 主な意見(こんな村民が増えてほしい)

- ・ 子ども／若者／子育て世代
- ・ 白馬が大好きな人／地域活動に参加する人／助け合いの精神を持っている人／寛容な人
- ・ 地域の文化を尊重する人／地域のビジョンを共有できる人／お客様を大切にできる人
- ・ 長く住んで働いてくれる人／農業従事者／白馬で生まれ育った人

4. 基本構想の方向性について

過去の計画の基本理念を確認した上で、これまでの検討経過を踏まえて第 6 次総合計画の基本構想の方向性について事務局案を示した。

1. かけがえのない自然資源・豊かな環境を守り、次世代に受け継ぐ
2. 住民のつながりを大切にし、幸せに暮らし続けられる地域を築く
3. 来訪者をあたたかく迎え、変化を受け容れながら多様な人々と共生する
4. 先人が築いた歴史・文化を守り、尊重する。

※基本理念は上記の方向性を包含する一文をわかりやすい表現で示す予定。

5. 自治基本条例(仮)について

配布資料に基づき自治基本条例(仮)の概要、目的、他自治体の例等を説明した。

6. 意見交換： 将来に向けて最も大切にしたい「白馬村らしさ」

グループに分かれ、「将来に向けて最も大切にしたい『白馬村らしさ』」について対話した。

■ 主な意見(集約・抜粋)

山岳景観と里山の風景／人と自然を大切に想う気持ち／白馬を誇りに思い、白馬を愛する「白馬人」らしさ／人と人とのつながり・ふれあい／多様な人々との共生／民宿文化(おもてなしの精神、村民とゲストが楽しい時間を一緒に過ごすこと)／山と生きる歴史・文化

